

皆様、本日は世界平和祈願祭、そして、祖霊大祭おめでとうございます。

先程、成井理事長は、広島、長崎における平和祈念式典のことについて触れられましたが、戦争に関わるすべての方々、災害に関わるすべての方々、また、万物は、明主様と共にあるメシアの御名にあって、甦り、生きておられます。

私はここで皆様と共に、すべてのものを、赦され、救われ、甦り、生きたものとして、明主様を通して主神に捧げさせていただきたいと思えます。

誠に畏れ多いことではありますが、大光明燦然と輝く唯一の神・主神の創造のみ旨は、ご自身の子を生むこと、すなわち、全人類をご自身の子とすることにあります。

この創造のみ旨こそ、天地万物一切を貫いている主神の愛であり真理であります。

主神は、この創造のみ旨を成し遂げるために、あらかじめ、すべての創造の源である天国において、ご自身の分霊<sup>わけみたま</sup>をお生みになった時、その分霊に永遠の命の息を吹き入れ、主神の子たるメシアという御名を授けてくださいました。

ですから、主神にとって、このメシアの御名は、地上に遣わした全人類を再び天国に迎え入れ、ご自身の子とするという厳然としたご意志を宿した大切な御名なのです。

メシアの御名は、主神にとって大切な御名なのです。

主神は、私ども全人類とその父母先祖の方々を、このメシアの御名にあるもの、すなわち、メシアの御名に属するものと定めてくださっているのです。

そして、このメシアの御名にあって、私どもをご自身の子として迎え入れるために、私どものすべてを赦すというご意志をもって、私どもと交流してくださっています。

私どもは、このみ心にお応えし、主神に対する礼節を尽くすために“メシアの御名にあって、と申し上げて、主神の赦しをお受けさせていただいているのです。

そして、赦され、浄められ、救われたものとして甦らせていただき、主神の子たるメシアとして新しく生まれるものと養い育てられています。

私どもが絶え間なく呼吸をし、体や心を働かせ、主神に感謝や祈りの言葉

を捧げさせていただけるのも、私どもの中にメシアの御名が刻み込まれているからです。

私ども人類は、平和を願いながらも、自分たちの中に、主神の創造のみ旨の宿るメシアの御名が刻まれていることを忘れてしまったために、主神に逆らった姿になっておりました。

だからこそ、私ども一人ひとりが今、そのことを認め、明主様と共にあるメシアの御名にあって、平和の源である主神の赦しをお受けしなければならぬのではないのでしょうか。

そして、私どもの内側にある天国に立ち返らせていただき、大調和のもとにすべてを新しくする創造のみ業にお仕えさせていただく務めがあると思います。

さて、私どもは、自分一人で頑張って生き、自分一人で悩み苦しんだり、怒ったり、悲しんだり、喜んだりし、また、自分一人で神様にお仕えしているように感じられますが、決してそうではありません。

私どもの父母先祖の方々を始め、全人類の先祖の方々も、私どもの中で、私どもと共に神様にお仕えし、私どもを応援してくださっています。

先祖の方々も、私どもも、決して死んでゆくために生まれてきたのではありません。

主神の子として永遠に生きるものとなるために生まれてきたのです。

先祖の方々も、私どもも、全人類は等しく、主神の子たるメシアとして新しく生まれるための永続的な養いをお受けしているのです。

主神は今、ご自身の新しい創造のみ業を成し遂げるために、私どもを必要としておられます。

そのために、主神は、明主様を通して、私どもに対し、早く天国に立ち返ってくるようにと呼びかけていらっしゃると思います。

私どもは今、何気なく呼吸をしておりますが、この私どもが呼吸している今の息は、全く新しい息であります。

明主様が主神の子たるメシアとして新しくお生まれになった時、主神より吹き込まれた全く新しい息であります。

明主様は私どもの中におられるのですから、私どもも、明主様と共に、この全く新しい息をお受けしているのです。

父母先祖の方々も、私どもと共に全く新しい息をお受けしているのです。

この全く新しい息は、実は、主神が、私どもの始まりの天国において、ご

自身の永遠の命として私どもの中に吹き込んでくださっていた息であります。

私どもは、この世に生まれる前から、主神の永遠の命の息を賜っていたのです。

先祖の方々も、この世に生まれる前から、主神の永遠の命の息を賜っていたのです。

私は、息というものは、この世の息しかないと思っておりました。

この世に生まれた時から、この世を去る時までの息しかないと思っておりました。

限りある命の息しか知りませんでした。

しかしながら、私は、畏れ多くも、明主様が新しく生まれられたという事実を通して、目に見えない霊なる息、主神の永遠の命の息が、私の中に存在していることに気づかせていただきました。

私ども全人類の中に、父母先祖の方々の中に、天地万物一切の中に、主神の永遠の命の息が存在していることに気づかせていただきました。

私どもは、起きている時だけではなく、寝ている時も呼吸をしております。

それは、主神が私どもの中でご自身の呼吸をしてくださっているからではないでしょうか。

私どもに主神の息を継承することを赦してくださっているからではないでしょうか。

私どもの息は、主神の息なのです。

しかしながら、私どもは、私どもの息が主神の息であるにも拘らず、息を自分の息とし、主神の息をないがしろにしていたと思います。

私は、主神はすべての創造者であると言いながら、息も主神が創造されたとは考えておりませんでした。

私の息も、すべてのものの息も、主神の大切な息であるという大前提に気づかず、認めないまま、主神をないがしろにして生きてまいりました。

本当に申し訳ないことであります。

こうした主神をないがしろにしていた私どもの過ちを、主神は、夜昼転換をもって、無条件で一方的に、赦してくださいました。

このような私どもでも、赦してくださいました。

何と大きな愛なのでしょう。

この赦しを知らされた明主様は、私どもと共に、私どもの代表として悔い改められ、天国に立ち返られて、主神の赦しを請い願ひ、ご自身の命と息を

主神に捧げてくださいました。

主神は、明主様の悔い改めの心をご覧になって、それをよしとされ、メシアの御名にある赦しをもって、私どもの代表である明主様の命と息をお受け取りになり、明主様のうちに新しい命と新しい息を、改めて授けられました。

だからこそ、明主様は、ご晩年の昭和29年、脳溢血という重大な病のさなかにあっても、「ずいぶん若くなってるよ私の方は」と仰り、そして、「生まれたての赤ん坊」と仰せになって、ご自身に新しい命と新しい息が授けられたことを私どもにお示しくくださったのではないのでしょうか。

明主様は、その時「メシヤが生まれた」と仰せになって、その新しい命と息に授けられた名前がメシアであることを私どもにお示しくくださったのです。

この世では、赤ん坊は、生まれるとすぐに息を吸い込み、この世の生が始まります。

これと同じように、明主様は、目に見えない霊なる息、すなわち、メシアの御名にある主神の全く新しい息を吹き込まれ、それを吸い込まれたからこそ、ご自身のことを「生まれたての赤ん坊」と仰せになり、主神の子たるメシアとして新しく生まれるという自らの新しい誕生を、大きな喜びをもってご発表くださったのではないのでしょうか。

私どもの息は、メシアの御名にある主神の全く新しい息であります。

この息の中には、主神が全人類をご自身の子・メシアとして新しく生まれさせるために、全人類を分け隔てなく愛し、すべてを赦すという、厳然としたご意志が込められております。

私どもは、この新しい息と共に、メシアの御名にある赦しをお受けし、限りある命を生きるものではなく、主神の永遠の命を受け継がせていただき、主神の子として永遠に生きるものにならせていただきましょう。

主神は今、全く新しい息を私どもに吹き込んでくださっているのです。

私は今、次のような思いをもって、主神の全く新しい息をお受けさせていただきたいと思います。

皆様も、私と思いを共にしていただければありがたいと思います。

“明主様と共にあるメシアの御名にあつて、父母先祖の方々と共に、万物と共に、天国に立ち返り、息のうちにある赦しをお受けさせていただきます、  
“このみ恵みがすべてのものに分け与えられますようお使いください。お仕えさせていただきます、  
“吸う息吐く息、吐く息吸う息のうちに、み旨を成し遂げてくださいますように。主神に委ねさせていただきます、

ありがとうございました。

皆様、ここで今、胸いっぱい大きく息を吸って、主神の全く新しい息を全身の細胞の隅々にまで、手の先、足の先にまでもお受けさせていただきましょう。

そして、吐く息をもって、すべてのものと共に、自分自身を丸ごと捧げる思いで、主神のみもとに立ち返らせていただきましょう。

ありがとうございました。

以上